



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 22 R6. 02. 15

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

カルチベートされた人間たれ — 『ラーゲリより愛をこめて』に思う—

ロシアのウクライナ侵攻から早くも2年を迎える。暗澹たる^{たん}気持ちは今なお続く。

ロシアといえば、日本も終戦直後の混乱期、多くの日本兵がシベリアに抑留されたという暗いイメージが^{わだかま}蟠っている。

遅まきながら『ラーゲリより愛をこめて』（二宮和也主演 2022年公開）を観た。主人公は山本^{はたお}幡男。1944（昭和19）年に召集され、敗戦後はシベリアに送られた。9年間の抑留生活の後、ハバロフスクの収容所で54年に亡くなっている。ラーゲリとは収容所のことだ。

過酷な労働と劣悪な環境によって多くの人が命を落とす中、山本は“文化”こそが生きる力になると信じ、仲間に句作を勧めて定期的に句会を開いた。

亡くなる直前、山本は家族に宛てて4通の遺書を書いてきた。収容所では文字を書き残すことはスパイ行為とみなされ、特に帰国前の検査は厳重だったから、仲間たちは手分けして暗記するという方法でそれらを日本に持ち帰ろうと決めた。



映画『ラーゲリより愛をこめて』公式サイトより

山本の死から2年後の56年、日ソの国交が回復し、帰国がかなった仲間たちは、それぞれ山本の家を訪ねる。こうして、ノート15ページにわたる遺書と、山本が収容所で書いた俳句や詩、随筆などが、「記憶」によって届けられたのである。

私が感動したのは、仲間にそこまでさせた山本の人間性と彼の思想に対してである。

山本は収容所で句会を開いたと先に書いた。その句会は無記名の句にそれぞれが票を入れる形式だ。彼自身は二等兵。しかしそこでは階級名や名前呼びあうことはせず、全員が俳号で呼び合ったという。皆が一人の人間として心を通わせるのがいい。

それに美しい日本語にこだわろうとする心。実はこの言葉への執着が帰国の希望、生きる証であり、逆境を生き抜く力の基盤になったのではないかと思う。まさに言葉の力だ。

また、この話にかかわって作家の辺見じゅんは次のように言っている。

収容所という地獄の中に、山本さんは「文化の力」を持ち込み、その力と自らの「人格の力」によって、絶望を希望に変えたのである。（辺見じゅん「山本幡男 絶望を希望に変えた無名の庶民の非凡な生涯」特集「この人」に学ぶ『潮』2009年）

言葉、文化。シンプルだけれど、強くて大きくて、そして確かなエネルギーをそこに感じる。言葉はコミュニケーションの手段であり、思考そのものであり、文化である。そして文化とはカルチャー、すなわち心を耕すことである。

カルチャーとは公式や単語をたくさん暗記していることではない。心を耕す、つまり心を広く持つということだ。それは愛するということを知ることでもある。

人は学ばなければならない。そしてその学びを生活にすぐに役立たせようと焦ってはならない。ゆったりとカルチベートされた人間になる。これが確かな人格を造るのだ。武高生の皆さんがカルチベートされた人間になることを祈ってやまない。

シータ波を出す！ ワクワクを感じると記憶に残りやすい

好きなアニメのキャラクターやアイドルの名前はあっという間に覚えられるのに教科書の内容はなかなか覚えられない。それはなぜでしょうか。脳科学が明らかにしているのは、海馬（脳の中核にある）の出すシータ波（電波みたいなもの）に関係しているとのこと。

人間は好奇心を持ってワクワクするとその内容は記憶に残りやすくなります。これは経験的にわかると思いますが、このからくりはどうなっているのでしょうか。



好奇心を持つとシータ波が出ます。その時に入ってきた情報は、それが初めての情報だったとしても、海馬は“ものすごく重要なこと”と判断して記憶に強く留めるといいます。シータ波が出ていると復習の回数を 1/4 に減らすことができることも分かっています。

ではどうやったら海馬からシータ波が出るのでしょうか。それは、学んだ内容を身の回りのものと関連付け（例えばその内容を生活の中に探す）たり、実際に自分でやってみたりしてみる（教科書で知ったことを試す）ことなのです。

探究的な活動が大切なのもこのことに関係しています。コンピテンシー（学習への意欲・態度・行動）が重視される時代ですが、これを最も鍛えることができるのは“実の場”、すなわち社会の問題、自然現象や科学現象の不思議に主体的にかかわる時なのです。“実の場”は一つの教科の内容だけで完結するものではありません。“実の場”の問題に関わりながら、Why と How を考える習慣にする。それを武雄高校の文化にしていきたいと思います！

Hallo！ オランダとのオンライン交流

2月1日と2日の両日、本校の21名とオランダ・ライナールトカレッジの学生21名がオンライン交流を行いました。これは佐賀県が2016年に駐日オランダ王国大使館と「クリエイティブ連携・交流協定」を締結し、また、東京2020オリンピック・パラリンピックにおけるオランダのホストタウンとしても登録されていることなどにより、県国際課に先導していただいている交流事業です。



本校とライナールトカレッジとの交流は今年で3年目。当日の交流は、両校の生徒でグループを作り、クイズで両国の文化に触れながらアイスブレイクからスタートしました。その後、気候変動やジェンダーフリー、スマホの功

罪などについてディスカッション。最後にまとめとしてそれぞれのグループでポスターを作り互いに発表しました。

参加した本校生徒は「ナマの英語のスピードについていけないところもあって聴き取る力を鍛えないといけないなと思いました」「オランダの人とは初めてでしたがとても興味を掻き立ててくれた国になりました」と語ってくれました。

TAKE OFF！ ぜひ若いうちに海外に一度羽ばたいてほしいものです！

（閑人閑話）久しぶりに高校時代の友人に会った。彼とは高1の時に同じクラス。成績はともかく、おどけたキャラクターとしてみんなには映っていた▼その頃について彼曰く「成績の悪い自分が生きていくすべはそう見せるしかなかった。中核にはじめてでネクラな自分がいた」▼高2で理系を選びながらも剣道や書道に関心を持つていた彼は大学で文学を専攻。卒業後、編集者として仕事をし、今は佐賀にUターンして書家・歴史研究者として活躍している▼三、四十代の頃、同窓会に行くとき「高校時代、成績の悪かったあいつがなんであんなに偉くなっているの！」と驚いたり嫉妬したりすることもあれば▼世の中は偏差値という高校時代の価値観ではない基準で成り立っている。その一つはどれだけ自分の頭で考えたかということなのだ。彼を見ながら思う。（昌）

【当面の主な予定（2月後半）】
15日（木）学年末考査（1・2年20日まで）
17日（土）土セミ（3年）
22日（木）直前集会（3年）
23日（金）天皇誕生日
25日（日）国公立前期試験（26日まで）
26日（月）月セミ・SC来校
29日（木）卒業式予行・同窓会入会式（3年）